

沖縄健康医療拠点の形成

西普天間
住宅地区跡地

今回は、宜野湾市の「西普天間住宅地区跡地」についてご紹介します。

西普天間住宅地区跡地（約 51ha）は、平成 27（2015）年 3 月に返還され、その後 3 年間で沖縄防衛局による土壌汚染・不発弾探査等の支障除去がなされ、平成 30（2018）年 3 月に土地の引渡しが行われました。その後、平成 31（2019）年 2 月に土地区画整理事業の認可を受け、令和 9 年度の事業完了を目指して事業に着手しています。

健康医療のまちづくり

これまでにない「新たな都市機能と水・みどり・文化の調和したまちづくり」

をコンセプトに、駐留軍用地跡地利用の先行モデルとして、琉球大学医学部及び琉大病院の移設を核とした「沖縄健康医療拠点」の形成に向けて取り組んでいます。

健康医療のまちづくり方策

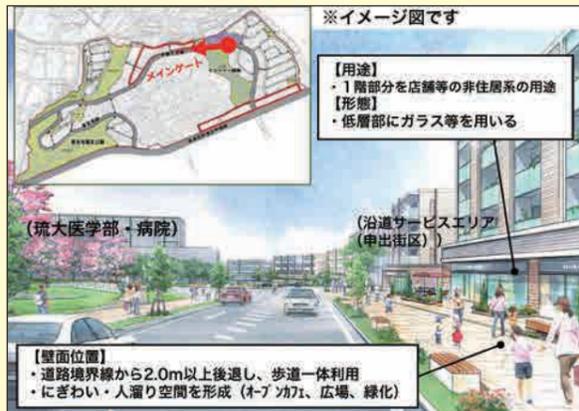
医療拠点は、約 16ha の大街区となるため地権者の負担軽減を目指して公共用地の先行取得買収に取り組み、平均減歩率 48%を 38%に縮減しています。

【区画整理計画図】



出典：宜野湾市作成資料

【まちづくり方策（賑わい）イメージ図】



出典：宜野湾市作成資料

また、健康の増進に寄与する賑わい創出として、医療拠点の玄関口となる幹線道路沿線には、賑わい機能をもつ申出街区ゾーンを配置し、歩道境界からの壁面後退と建物裏側の駐車場配置などを設定し、沿道には歩道と一体利用できる賑わい空間（オープンカフェ、広場等）の形成を図っています。

また、本地区には約 22ha、標高差約 60mの斜面地等がありますが、斜面地は個人での土地利用が難しいため広域的な公園・緑地を配置し、歴史文化・自然環境・景観を楽しめる憩いの場を繋ぎます。公園緑地内で保全される多数の歴史文化資源や湧水群を散策できる憩いの空間及び歩行ネットワークを計画し、市民の健康増進に寄与することを目指しています。



ふるさと

地権者支援情報誌「ふるさと」では、普天間飛行場跡地利用に関する最新情報をお伝えします。

土地活用意向に関するアンケート調査を実施中です！

ぜひ、皆さまの声をお聞かせください！！

11 月にアンケート調査票をお送りさせていただいております。地権者の皆さまの現在の土地活用に関する意向を把握し、今後の跡地利用計画に反映させることを目的として、アンケート調査を実施しています。

今後、普天間飛行場の跡地利用を考えていく上で、皆さまのご意見が必要となりますので、ぜひアンケート調査にご協力くださいますようお願いいたします。

アンケート調査票に同封しています返信用ハガキにご回答いただき、お近くのポストにご投函ください。（切手不要）

また、今回のアンケートは WEB からもお答えいただけます。詳しくはアンケート調査票をご覧ください。

なお、アンケート結果については、来年 3 月発行予定の「ふるさと 第 54 号」で概要をご紹介します予定です。

なお、本誌と行き違いにご返信いただいておりますら、何卒ご容赦ください。

回答締切

12月27日(月)

まで

本誌に同封しています「跡地利用計画策定に向けた取組」「若手の会の検討内容に関する資料」もあわせてご覧ください！

現時点の「普天間飛行場跡地利用計画策定に向けた取組」に関する資料と、「普天間飛行場の跡地を考える若手の会の検討内容」に関する資料を本誌に同封しています。

皆さまからいただいたご意見を踏まえ、検討内容をさらに深めていくことができればと考えております。

内容をご覧いただき、ご意見等ございましたら同封資料に記載の URL または QR コードから回答フォームにアクセスいただき、ご入力ください。

土地先行取得事業を実施しています

宜野湾市と沖縄県では、普天間飛行場返還後の跡地において、新たな住みよいまちづくりを進めることを目的に、返還前の早い段階から公有地（学校用地、道路）を確保するため、「沖縄県における駐留軍用地跡地の有効かつ適切な利用の推進に関する特別措置法」に基づく土地先行取得事業を実施しています。詳しくは市ホームページをご覧ください。

【地権者支援情報誌「ふるさと」発行元】

宜野湾市役所 基地政策部 まち未来課

〒901-2710 沖縄県宜野湾市野嵩一丁目1番1号

電話 098-893-4401(直通) FAX 098-892-7022

普天間飛行場跡地利用に係る情報は、宜野湾市ホームページや情報提供窓口（宜野湾市基地政策部まち未来課）でも提供しております。

情報収集や跡地利用に係る要望・ご意見を述べる場としてお気軽にご活用ください。



まちづくり座談会

を開催しました!!

地権者や市民も一緒になって普天間飛行場跡地のまちづくりに取り組めるよう、昨年度に引き続き、継続してまちづくり座談会を開催しています。

今年度は「エリア価値を高めるまちづくり」をテーマとして、計3回の開催を予定しており、第1回を7月31日(土)、第2回を9月16日(木)に開催いたしましたので、概要をご報告いたします。

当日の動画はYouTube上に公開していますので、皆さまぜひご視聴ください!!

▶ QRコードでアクセス

第1回



▶ QRコードでアクセス

第2回



▶ URLを直接入力

<https://bit.ly/2Z65VvS>



▶ URLを直接入力

<https://youtu.be/mpFz62sdlgI>

第1回 令和3年7月31日(土) 開催

エリア価値を高め、持続性の高いまちのつくり方

パネリスト

奥原 悟 様 北谷町 デポアイランド通り会 会長

植松 宏之 様 一般社団法人 大阪梅田エリアマネジメント代表理事
大阪大学コミュニケーションデザインセンター 招へい教授
流通科学大学経済学部 教授

多和田 功 様 宜野湾市役所 基地政策部 次長



多和田氏 植松氏 奥原氏

座談会の概要

①地域性の取り入れ方について

- アメリカンビレッジ(北谷町)では、「公共空間の使い方」を重視してまちづくりを行っている。
- また、まちのスケールを大きく見せるため、私有地と道路用地の境目をボーダーレスにしている。
- 沖縄においてウォークアブルなまちづくりを進めるにあたっては、日差しが強いため、緑や豊富な地下水を活用した整備が考えられる。



アメリカンビレッジ(北谷町)の私有地と道路用地の境目のようす

②成長プロセスとエリア価値のマネジメントの関係性

- 公共交通や都市交通、人の動線の計画は、初期段階で行うことが非常に重要である。
- 開発初期は、回遊性向上に向け、イベントの開催を行った。イベントはその地域に似合うものを探すことが大切である。
- ハード面の整備とともに、「ここに来ると何か感じる」「なぜかここに来たくなる」といったような人の感性に響く仕掛けづくりが必要である。
- これからのまちづくりは、官民で一緒に取り組んでいくことが重要である。



うめきた(大阪府)のイベント開催によるにぎわい創出

③まちづくりに関わる人や事業者のモチベーションの高め方

- 1つ1つの活動を地道に継続していくことがエリアマネジメント活動では大切である。
- エリアマネジメント活動は、損得勘定ではなく「人と人との繋がり」、「相互扶助」である。
- まちづくりを始める前から、地権者や市民が「まちを育てる気持ち」を持っておくことが最も大事である。

ポートランドに学ぶ

第2回 令和3年9月16日(木) 開催

「パブリックスペースにおける緑や公園のつくり方」

講師

柳澤 恭行 様 アメリカ・オレゴン州登録建築家/アメリカ建築家協会(AIA)日本支部会員

座談会の概要

①ポートランドにおけるまちづくりの取り組み

- シティーリペア
・まちの中の道路の交差点にカラフルな絵(アート)を描いて、その周りにベンチやティーステーションを設置するなど、人々の交流の場をつくる活動を市民主導で行っており、メンテナンスも市民が担っている。
- デザインシャレット
・様々な立場の人達が集まり当事者となって話し合い、結果を絵に落としこんでいくことでアイデアの実現化に向けた手法を検討する。



②ポートランドから学ぶ、まちづくりの考え方の視点

- ポートランドから学ぶ、まちづくりの考え方の視点
・市民が主導となって様々な事を一緒に取り組むことにより、市民間のネットワークがどんどん広がる。
・自分の意見がまちづくりに反映されることで愛着がわき、継続的なアイデンティティ、プライドの構築につながる。
・自分達で考えたアイデアではなく二番煎じのイベントも多いが、それでも面白いと思ったことをまずやってみることが大切である。



オンライン
開催

第3回まちづくり座談会

12月
配信予定

テーマ：『みらいを描く 公民学連携のまちづくり』

【講師】三牧 浩也 様 | アーバンデザインセンター柏の葉 副センター長

第3回まちづくり座談会は、スマート・コンパクトなまちづくりを進めてきた「柏の葉キャンパスタウン」の事例をご紹介します。普天間飛行場跡地のまちづくりに向けた重要な示唆を導きます。概要につきましては、次回のふるさとで改めて皆さまにご報告いたします。